

神戸大学練習船深江丸による海洋底探査活動について

正会員 若林伸和 （神戸大学海洋底探査センター）

平成 27 年 10 月に発足した神戸大学海洋底探査センターでは、神戸大学大学院海事科学研究科練習船深江丸を利用して、海洋底の探査活動を実施している。まず、練習船を調査船としても使用できるように、船底へのマルチナロービーム測深装置（MBES）の取り付けや船尾甲板の改修などを施した。

これまでに、第一次：平成 28 年 10 月、第二次：平成 29 年 3 月とそれぞれ 10 日～15 日間の探査航海を行った。また、平成 29 年 10 月には第三次の探査航海を実施中である。探査海域は、巨大海底カルデラとして知られる鹿児島県薩摩硫黄島付近の鬼界カルデラを主な対象としている。

具体的な探査の内容は、MBES による海底地形探査、プロトン磁力計による地磁気の計測、地震反射法による地層探査、ROV による海底映像の撮影、OBEM、OBS の設置と回収などである。

発表では平成 29 年 10 月に実施した最初の探査航海の様子を中心に概要を説明する。また、船舶職員養成のための練習船による海洋・海底調査の実施について、準備と運用について紹介し、課題にも言及する。